

EGFR uncommon mutation を有する非小細胞肺癌患者における化学療法及び EGFR-TKI の効果に関する後方視的検討

研究対象：

2006年2月から2014年12月までに、国立がん研究センター東病院で EGFR 遺伝子変異陽性非小細胞肺癌と診断した患者さんの診療記録を対象とします。上記対象患者さんのうち、EGFR uncommon mutation を有する非小細胞肺癌の臨床病理学的背景、化学療法及び EGFR 阻害薬の有効性を評価するために情報を収集します。

研究の概要：

国内において、肺癌は死亡数が最も多いがんです。近年、肺癌の化学療法においては、EGFR 遺伝子変異陽性非小細胞肺癌に対する EGFR 阻害薬などのドライバー遺伝子変異を標的とした分子標的治療薬による治療が注目されています。EGFR 遺伝子変異陽性非小細胞肺癌に対する初回治療として、これまでの抗癌剤を用いた化学療法と EGFR 阻害薬を比較した試験では、EGFR 阻害薬の有効性が示されています。こうした背景から、現在では EGFR 遺伝子変異陽性非小細胞肺癌の初回治療として EGFR 阻害薬を用いることが一般的とされています。EGFR 遺伝子変異の中でも common mutation といわれる遺伝子変異を有する例は、これまでの研究において EGFR 阻害薬への効果と関連することが明らかとなっている一方、uncommon mutation を有する症例に対する EGFR 阻害薬の有効性に関する研究は少ないことが現状です。今後、EGFR uncommon mutation 例における治療戦略を立てる上で、化学療法と EGFR 阻害薬での治療効果を明らかにすることは有用であると考えられます。

研究の意義：

EGFR uncommon mutation を有する非小細胞肺癌に対する化学療法と EGFR 阻害薬の有効性を明らかにすることは、将来的により良い治療を患者さんに提供することへつながるため、本研究の意義は大きいと考えています。

目的：

本研究は、EGFR uncommon mutation を有する非小細胞肺癌の患者さんに対して、どのような治療が行われ、どの治療が有効であったかを調べることを目的としています。本研究の結果により、EGFR uncommon mutation を有する非小細胞肺癌に対するより適切な治療が明らかになると考えられます。

方法：

2006年2月から2014年12月までに、国立がん研究センター東病院で EGFR mutation 陽性非小細胞肺癌と診断した患者さんの診療記録を対象とします。上記対象患者さんのう

ち、EGFR uncommon mutation を有する非小細胞肺がんの臨床病理学的背景、化学療法及びEGFR 阻害薬の治療効果を評価するために情報を収集します。情報収集の作業は医師をはじめとする医療知識のある研究者が行います。この収集した情報を通じて、EGFR uncommon mutation を有する非小細胞肺がんに対する有効な治療法を検証します。

個人情報保護に関する配慮：

閲覧する診療記録には個人情報が含まれますが、患者さん個人が特定されないやり方で情報を収集します。対象となる患者さんの識別は本研究専用 to 別途割り振られた研究番号を用いて管理し、個人情報が院外に出ることはありません。患者さんからのご希望があれば、その方の診療記録は研究に利用しないようにしますので、いつでも次の連絡先まで申し出てください。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒277-8577 千葉県柏市柏の葉 6-5-1

国立がん研究センター東病院 呼吸器内科 白井優子・桐田圭輔

TEL04-7133-1111/FAX04-7121-4724